

南5936P 19行 崇光天皇の御時
南5947 5行

5,945

南5936P 21行 日本史片 天皇 せせせ 130
南5937P 6行 孝頼
太平記 458P 太平記 (足利義詮)
開7月 延享448P 太平記 4-380 405

南5937P 6行 孝頼
太平記 4-380 405

継体天皇の先例による後光厳天皇即位

中央の方に、話を戻そう。

正平七年(一三五二)二月、足利直義が鎌倉で毒殺された。(既述)

その直後の閏二月二十日、南朝方の北畠親房・楠木正儀らの軍が、尊氏に代わって京都で政務をとっていた足利義詮(尊氏の三男)を破り、京都を近江に追いや、京都を確保した。

明院統の光厳上皇・光明上皇・崇光上皇、

よび、皇太子を廃された直仁親王は、南軍の扱

矢、石清水八幡を経て河内東条に移された。

も、とも、南軍の京都占領は約一ヶ月にすぎず、三月十五日に義詮は再び京都を奪還した。

ただ、三上皇と直仁親王を奪われた北朝側として、は、政権の体をととのえるため、何と

してでも天皇を確保しなければならなかった。義詮は、密かに使者を河内東条へ送って上

地名 1058 無

H9.8.31 (日)
H6.7.24 (日) ⑥
→

5.947^P

⑤5953^P 1/3

石清水八幡宮 5945^P 13行
改行

いんま
いんま
神器 5.1143^P 洞院殿

5.961^P 16行

次々更し

日本史研
362^P 70x
5.1783^P
いんま

土御門東洞院殿で元服して諱を弥仁と定め、
即日踐祚した。後光厳天皇である。
■だが神器もないので、神鏡の容器である小
唐櫃で水を代行した。これは、さきに南軍
の本營、石清水八幡宮を奪還した時、
天皇の御座の間から醍醐寺三寶院賢俊が探
し出しておいだものだった。
■この時の踐祚の先例は、いろいろ検討し
た結果、遠く、
「継体天皇の例による」ということとされた。
（「歴史読本」第二十九巻第十
八号、新人物往来社、一三〇頁。「広辞苑」
へ後光厳天皇、日本史辞典へ東京創元社
へ後光厳天皇、等参照）
＊

H9.8.31 (日)
H6.7.25 月(土)

5950⁺

5,948^P

情状 1087^P

前 8~10年

それにして、
この時の踐祚の先例は、―――
例によるというのとさめた
とは、一体、何を意味しているのだろうか。
あえて言えは、
なるとは、
へ天皇位を継ぐ者がいなかたので、
人物を探して天子にした（継体紀参照）
という程度の類似はあろう。しかし、
の状況は、ずいぶん違っている。
また、
神鏡もないので、神鏡の容器である小唐櫃でこれを代行した。
とは、あまりにも尊厳さに欠ける。
そんなにも安易に、天皇位につくことが出来るものなのだろうか。
へそもそも、中身の無い小唐櫃をもって天皇位になった者に、―――どの様な権威があるというのだろうか。✓
と、大いに疑問視される。
一か、北朝ではこれより後、

憶夜-120^P 逼塞 1873^P

5.949^P

ひつみくた
1392年10月18日
1392 161 1352
⑦5958 ⑧5946末2行

南北朝
全57年

から
空 466^P

前々頁之行

へ後光厳天皇から後円融天皇へ譲位され、
更に後小松天皇へと譲位されてゆく。

このようになる。

北朝の諸天皇は、偽造の神璽さえ無く、

空っぽの小唐櫃を引き継ぐことによつて、天

皇位を次から次へ継承していったのだらうか。

■ そうかも知れないが、―――到底信に難い

ことのように思われる。

■ 観応三年（一三五二）八月の後光厳天皇践

祚の時から、後小松天皇の明德三年（一三九二）十月

南北朝合一の造の四十年間、寺の長きにわた

り、北朝にも一も神器が無かつたとすべ

へ北朝はただ単なる偽りの天皇を戴く賊徒

の集団にすぎない。

と非難され続け、衰退の一途をたどつたはず

であろう。

■ ところが現実には、全く反対に、吉野朝廷

は逼塞し、武家の天下が明確になつていくの

である。

木

■ それではここに、足利尊氏の立場に立つて

推察してみよう。

5898P

後醍醐天皇、光厳天皇を止す、日本史所 331P
5.950P

5908P
後醍醐天皇 127P
高 844P

1063P
神皇正統記 授受 5948P
5948P

1959P
神皇正統記 授受 5948P
5948P

足利尊氏は、恐らく、
由緒正しい神器の授受無くして即位した
天皇に、どれほどの力があるのか。何かよい
方策はないだろうか。
と思案したに相違ない。
いうまでもなく、
血を承けた天皇が認めて、
真の神璽は吉野にある。従って、正統な
王朝は南朝だ。
と声高に主張し、
北朝の天皇と元号を廃止する。
と宣言すれば、
北朝はもうくも崩壊してしまおう。
いや、賽の河原に積み重ねられる石塔のよ
うに、これからも際限なく叩き潰され続け
るに違いない。
誰もか納得できる正当な神器を手に入
れることは、出来ないのか。
尊氏の願望はつる。
思い返せば、
北朝初代の光厳天皇践祚の時には神器なく

H6.7.27(水) ⑤5936末

⑤5936末 (2回) ⑤5936

5.951 P

⑤5915 P

⑤5898, 5908 ⑤5898 偽物云々1695 P

その直後、後醍醐天皇を笠置に捕え
て手に入れた神璽は偽物だった。
●光厳天皇は、即位された翌年(一三三二)
隠岐島の配所から上京途中の後醍醐天皇によ
って、あつけなく廃された。
●延元元年(一三三六)八月、尊氏は北朝第
二代の光明天皇を奉じた。そして十月、花山
院に幽閉中の後醍醐天皇から、光明天皇へと
神器が授けられた。しかし、この際の神器も
偽器であつた。

●崇光天皇(光厳天皇の第一皇子)は、正平
三年(一三四八)十月光明天皇の譲位により
践祚、翌正平四年(一三四九)即位し、北朝
第三代の天皇となられた。
●足利義詮は偽つて、吉野朝廷に和を請うた。
吉野朝廷はこれを許した。(南朝の指示があつ
たからか)足利義詮は、崇光天皇及びその嗣
子直仁を廃し、正平の号を用い、正平六年
(一三五二)十二月二十三日に偽造の三種の
神器を後村上天皇に奉った。

H6.7.28(木) 紀上146
→ ⑥

5,952↑

すいたい 推戴 1174 真 2073
何と

なぜなぜ126↑

すいたい 推戴 1174 真 2073

つまり、北朝の天皇を立てるたび、
の意向により、極めてあつさりとは断絶され、
たのだった。
天皇の象徴としての真実の神器がないば
かりに、推戴した天皇は一度ならず二度まで
も廃され、また、悔しい限りよ。
尊氏は、歯ぎしりしてうなつた。
「ううむ。何とかしてでも真の神器が欲しい。
そして、正当な手続きを踏んで即位した天
皇を天下国家の為に戴きたい」
あるいはそんな時、尊氏の脳裏に、
熱田神宮の奥深くに封印されて眠って
る草薙剣。
のことが思い起こされたのではなかうかや
へそうよ。真正正銘、真実の神器があるで
はないか。あの草薙剣さえ手に入れたら
出来たらならば、私がいま擁立しようとい
ふ天子は、正統な天皇だということになる。
「イヤイヤ、伊勢神宮の八咫鏡と熱田
神宮の草薙剣こそ本来の神器であつて、南
朝

H6.7.29(金)⑥
→

ちよさい 永1460^p
勅裁 天皇が自ら
裁断したと

太平記⑤-17^p 1212
④594^p 8月17日
5.953^p-1/3

太平記5-17^p せし
制止 永1221^p
1.11^p 録してない

越田大宮司④5914^p
改行

この頁189^pへ
已上238^p
毛壇の御の儀、1185^p
22^p 24^p

に伝ゆる鏡と劔は継体天皇即位のとき更に造られ
た神璽でもない。つまり、北朝の天皇こそより
正統な天子だということが出来よう。✓
なるほど定かでない。しかしに足利草
氏は、強引にも越田大宮司の制止を振り切り
どうにかして越田神宮の口草薙劔を取り
上げた、と考えてみたい。
さうして、
三種の神器のうちの日草薙劔は一振
と、かつて神鏡が収められていた口小唐櫃
とでもって、後光厳天皇の踐祚の儀式(神璽
を継承する儀式)がとり行なわれた。
ということなのではなからうか。
ともあれ、
後光厳天皇の踐祚の儀式は、観応三年
(一三五二)八月十七日、継体天皇の踐祚の
時の例にのっとって挙行された。
のだった。(既述)
なお、すでに述べた通り
①宮中賢所の鏡は「寛弘二年(一〇〇五)
長久元年(一〇四〇)兩度の火災に焼け損じ

5,953^P-2/3

下げ
下げる
① 原形を失なけ
② 宮中の剣は、安徳天皇壇浦入水の時海中に沈み、
その後別の剣を以つてこれに代えた
という。 (日本書紀) (上) 日本古典文学大系
昭和四十三年六月十日第二刷発行 岩波書店
五七一頁、補注一九参照

(*)

元寇のうらやましい

1743 北朝正統問題
 幣原喜重郎 5953 草薙剣と手と 判然 1838
 人向 1/25 所入れと
 5978

5.953^{P-3}/₃

天つき
改行

更に更に
 更に更に
 更に更に

前2頁 1599

なお「からあえて述べる」と

「継体天皇の例による」

というのは、

①本来の神璽である日草薙剣を所持する北

朝こそ、我が国の正統な王朝であつて、

②更に「造られた神璽」を保持する南朝は、

あくまでも従属的な王朝にすぎないのだ、

ということを意味していったのかも知れない。

北朝は、そう主張したかつたのであろう。

だが「いうまでもなく、

△草薙剣が、再び政治上の表舞台に出てき

た事実があつたのかどうか

にについては、今となつては判然としない。

今後の究明を待ちたい。

参考迄に述べると、

「従来、宮内省は北朝正統説をとつていた。

しかし、桂太郎首相の時、明治天皇の勅裁

により南朝を正統とした

という。『日本史辞典』東京創元社、八南

北朝正統論（参照）

＊

いうはく大平記5-18^P 257 92251
有職 22471 天國史 22315

5.954^P

太平記5-16^P

けんじ 云々07^P
剣聖

ややこいから 全角トル

因みに、太平記^{ちや}卷第三十二^{トル}
剣聖^{けんじ}（草薙剣^{くさなぎのつるぎ}と八坂瓊曲玉^{やさかたのまがたま}とを総称し^{けんじ}て剣聖^{けんじ}という）無うして御即位例無き事付けたり院の御所炎上の事^{けんじ}
の段の一部に、注釈を付して見てみることはよう。
〔後光厳天皇^{ごこうごん}が踐祚^{せんそ}されて一ヶ月後の〕
九月二十七日に改元があり文和^{ぶんわ}と号^{ごう}された。
そして同年の十一月に大嘗会^{たいじやうえ}（天皇即位後最初の新嘗祭^{しんじやうさい}）が遂行された。三種の神器^{さんしゆのぐんぎ}かな
く^{トル}草薙剣^{くさなぎのつるぎ}を用いて御即位の事はどうしたものと、諸卿反対が多かつたけれども
將軍（足利尊氏）が強^{つよ}く主張したからには、
ただともかくもその儀に従うしかないのので、
大嘗会の祭りを行なつたとぞ承る。
神武天皇よりこのかた、三種の神器^{さんしゆのぐんぎ}おはしまさで^{トル}御即位を続^{つづ}かせたもう事は、いまだその例を聞いたこと
かな^{トル}（六国史^{りくくし}などに記されていなり）
と、有職^{ゆうしやく}を立つる人々（朝廷の儀礼や故実を

かいろ
回禄 元 365↑
太平記 5-18↑

5.955P

からび
小唐櫃 5947

伝える家に属する人々の非難しない者は無
かつた。

そして翌年の文和二年（一三五三）二月四
日、にわか失火があり、院の御所持明院殿
が焼けた。回禄（火事で焼けること）は天災
であつて世のつね有る事というものの、近
年うち続き京中の寺社・宮殿残り少なく焼け
失せぬる事は、ただ事とも覚えなない。ただ仏
法滅亡のきざし、朝廷の衰微のしるしと思
われる。云々

といつた意味に理解される。

では、院の御所持明院殿が突然の失火で焼
けたのは、天災だったのだろうか。それとも
誰かが、非難の意味を込めて火を放ったのだ
ろうか。その詳細は分からないが、ただごと
とも覚えなない出来事であった。

また、院の御所持明院殿に火災のあり、
草薙剣^{くさなぎのつるぎ}や小唐櫃^{からび}が焼けたのかどうか
不明ながら、———こ小以後も、北朝が続い

ていったところを見ると、少くとも草薙剣
は無事だったのであろう、と思われる。

5.956P

15

皇室大百
259P

日本史15P

もふんな
文和

足利尊氏の死

文和元年(一三五二)後光厳天皇を擁立し

て北朝を再建したとはいうものの、幕府に反

抗する武士の南朝帰順があとをたなかつた

■また、この当時、吉野朝廷の諸将がいばし

は兵を起して京都を攻めた。そこで、後光厳

天皇は、やむなく難を避け、転遷された。

■そして、室町幕府の基礎が十分定まらな

うちに、足利尊氏は病没した。それは、後光

厳天皇の延文三年(一三五八)四月三十日の

ことであつた。

■室町幕府は、このよりの義詮・義満へと

引き継がれてゆくことになる。(「日本史辞

典」へ足利尊氏・義詮・義満)。皇室大百

科「朝日通信社、二五九頁へ後光厳天皇」参

照)

米

H9.9.3(水) 今川了俊 149 恒良 174
H6.7.30(土) 恒良 174
→

元光 245 筑前国 武光 113 総帥 元 1290
三井 83 元光 1174
元光 5937 病没 前夜 中央

5957-120
115 三井 83 元光 1174

九州 宮方の衰退
もう一度 九州の方に目を転じよう。
足利尊氏が病没して一年三ヶ月後の正平十
四年(一三五九)七月、菊池武光は、懐良親
王を奉い、武家方の総帥小式頼尚の本
拠大宰府を攻略するため、精兵四万五千を率
い、肥後を出て、筑後に進出。
西將軍の本營を筑後の国府枝光に置いた。
かくして、壮絶を極める激戦。筑後川の合
戦。か、三井郡一帯の平原で繰りひろげられ
た。第573回(国へ菊池武光)参照
正平十六年(一三六一)七月、懐良親王大
宰府入城。ついに九州平定の大業の
宿願を果たした懐良親王は、大宰府を征西府
とし、およそ十年にわたって九州を統治さ
れた。
だが、足利幕府の管轄今川了俊が新たに九
州探題として九州へやってきました。こ
局面は大きく変わった。了俊の軍は門司、豊後
肥前の三方より上陸し、大宰府包囲網を形成
した。

・カラ-

・右顔上部分に、限定一杯はみ出して大きく掲載下さい。

↑



カマ↑

5,957^P-2/2

626

1384

1484

第573回 菊池武光

(小山栄達筆)

『名画にみる国史の歩み』編者、所功、近代出版社、平成12年4月19日発行、49頁参照。

11. 後醍醐天皇の皇子懷良親王を迎え、官軍の士氣大いにあがり、九州の大半を平定した。

9. 利を求め、大友氏や少弐氏、足利氏に寝返ったので、武光は討伐の軍を起した。

正平14年(1359)7月、両軍は筑後川で激突した。八千余の官軍は、六万の軍を率いる少弐頼尚と対戦し、夜襲をかけた。激戦の末に敵を破った。

その時、武光が刀を流した川は、血の色に染まったという。

とが 渡河 元1586 (れつ 元1135)

5,958 1/2

よらが 元2267 印け渡す 26 懐良 174 135

高良山 地35 65

ここの、一時宮方になびいていた武家は、
 またもや武家方に転じた。
 こうして、大宰府の周辺で、五ヶ月間に亘
 る攻防戦が展開された。
 一かゝ、遂に維持しがたく、大宰府は陥落
 した。それは、文中元年(一三七二)八月の
 ことであつた。
 大宰府を明け渡した官軍は、筑後の高良山を
 本営とした。高良山は、標高およそ三〇〇
 ・その前面を流れる筑後川が天然の堀となつて
 おり、攻めるに難く、守るに易い要害の地で
 その山塊は累々と肥後にまで連なつてい
 る。
 筑後高良山の攻防も、熾烈を極めるもので
 あつた。官軍は、屢々筑後川を渡河し下
 の陣地へなぐり込みをかけた。ともかく、二
 年間に及ぶ抗戦は、懐良親王の威光のしから
 ず、むしろものであつたといえよう。
 だがついに、文中三年(一三七四)九月一
 七日、高良山も落城した。

元渡る 高良山と書く

たかや
良成 金持の父 110^p

懐良 136^p, 126^p

5.958^p - 2/2

懐良親王は、この敗戦の責任を自らとり、
征西将軍職を良成親王（後村上天皇の第六皇子）に譲渡された。（「懐良親王の生涯」坂井藤雄、葦書房、一一三―一二〇頁、一三四―一三六頁参照）

*

時すでに、菊池武光もその子武政も戦い

（武光の孫）

か元で病没し、少年武朝が菊池の柱石となっていた。良成親王も、ほぼ同年齢。この弱冠二十にも満たない二人が、これ以降の九州宮方を背負って立った。悲愴というほかない。（「懐

良親王の生涯」坂井藤雄、葦書房、一三六頁参照）

武朝は良成親王を奉じて、天授四年（一一三

七八）九月、今川了俊にひきいられる大友・

大内氏の軍といまの熊本、託麻原で激戦。数刻ついにこれを破った。しかしこれを最後とし

⑥ 639P
4行
やういふ
八代神社
懐良親王墓
みやち
宮地
地名録
1529頁
3段

地名録 1588P
百科⑥-148P

第幾川 121 高年地 13 頁

星野
てんりん 1544
天陰 小林 270
扱える 2292
5,959P

懐 136
地名 1511P

後生山・耳納山とある

高田 みかん

引貝
364P
小林 364P
土中 364P

ひ っ
引き進める 1855P

て次第に押しかえされ、弘和元年（一三八二）
六月には菊池の本拠も陥落し、武朝は山中に
のがれて行方くらまりました。
■武朝は良成親王とともに、元中三年（一三
八六）宇土城にこもったが、同七年こ
こも落城し、八代へ落ちのびた。だが八代も
その翌年攻めおとされ、高田へ移り、ここ
で元中九年（一三九二）の南北朝合一をむかえる
ことになる。（熊本県の歴史 森田誠一、山川出版社、二〇一三頁参照）
■一方、良成親王に将軍職を譲った懐良親王
は、従者を引き連れ、水繩連山（箕生山・耳納山ともう
を峰伝いに越えて、福岡県八女郡星野村へ移
去され、星野の天陰に拠られた。そして弘和
三年（一三八三）三月二十七日、この星野で
お亡くなりになったという。（「懐良親王の生
涯」坂井藤雄、葦書房、一三六頁、一五二頁参照）
■各地に、懐良親王の墓の伝説地がある。
■とはいえ明治十一年（一八七八）、宮内省
は、熊本県八代郡宮地（現八代市）の墓所を
懐良親王の墓とし、明治十三年同所に親王を
まつる八代宮を創建した。へ「世界大百科事

典し平八社、へ懷良親王✓。『帝國地名辞典』
太田為三郎、へ八代✓参照

■我が国初代の天皇に擬して行動されたよう

ある懷良親王の墓所を八代と定めたのは、

それ相応のいわれがあったからなのだろう

・あるいは、懷良親王ご本人が、八代の地に

永眠することをお望みになったのかも知れな

い。

米

1392
1336

60年 5903 東洞院
56年 5916 日本史 756 57年 5917
56年 5916 5,961 P

二か
国衛云々 773 P 一りよう
同司の統治 466 生涯 159 P
5894 系譜

南北朝の合一

北朝の明德三年・南朝の元中九年（一三九

二）足利義満は南朝の後龜山天皇に和平条

件を提示した。その条件は次の三カ条である。

一、後龜山天皇は讓国の儀式をもって三種の

神器を後小松天皇に渡す。

二、今後、皇位は南朝、北朝の両統交互とす

る。一、諸国の国衛領は大覚寺統、長講堂領は持

明院統の支配とする。

南朝はこの条件をのむこととなり、後龜山

天皇が上洛して南北朝合一が実現。神器は

北朝後小松天皇の皇居、土御門東洞院の内裏

へ移された。こうして、足かけ五十七年に及

ぶ南北両朝の分裂は幕を閉じた。

もつとも、幕府側は、皇位継承等の合体系

件を履行しなかった。そこで、南朝再建の動

H12.1.13
H9.9.3 (水)
H6.7.31 (土)

南3101P

主君は
享保年間(1716~1736)にH11.11.25(土)⑥
早稲刈を日な。

5.962P-1/5

「日本史」高橋孝雄 187°
千江7015
H12.1.14

ちろん
勿論 2191P
返還 2001P

ちんあつ
鎮在 1466P

きも起^おったか、時代^{いだい}の波^{なみ}に押^お一流^{いなが}さ小、鎮^{ちんあつ}在^{あつ}
さ小^さてーまう^{まう}こ^ことになる。〔懷良親王の生
涯〕坂井藤雄、葦書房、一五九―一六〇頁参
照)

■なお、

〔南朝勢力の壊滅は、事實上、公家政権の
消滅を意味している〕

という。〔日本史〕大阪教育図書、一八七
頁参照)

このことは、日本古代史を考察する上にお
いて、非常に重要なことである。

■恐らく、

〔南朝勢力の壊滅は、――、真実の歴史の
消滅をも意味している〕であろう。✓
と推察される。

＊

1716 1735
 -1392 -1392
 324 343

5,962 - 2/5

3/10/19
 享保年内に草薙剣を見た。
 (577p)

ちろん人 P ひとみくに
 勿論 219, 1392年
 返院 2001
 「こころ」

5942

ところで、
 へ明徳三年（一三九二）の南北朝合一の後
 返還さしたのであろう。
 と想像される。
 ・とはいえ、勿論言うまでもなく、その真相
 を知る者はいない。
 二）から約三百年後の江戸時代中期、享保年
 間（一七一六～一七三五）に書かれた日玉籤
 集にという本に、神宮四、五名が熱田神宮の
 日草薙剣をひそかに拝見したと、次のよう
 に記述されている。
 「御神体は長さ二尺七、八寸（八十三年前
 後）ばかり、刃先は菖蒲の葉なりにして、中
 程はムツクリと厚みあり、本の方六寸ばかり
 は節立ちて魚等の背骨の如し。色は全体白
 し」とある。（第五十六章へ熱田神宮の草薙剣）
 の項において既述）

熱田神社の「酔笑人神事」
 解説さしてゐる。写真図版 833 へ熱田神社
 の「酔笑人神事」参照
 天智七年（六六八）新羅の僧に盗み出さ
 れた神剣「草薙剣」は、取り戻されたのち宮
 廷に安置されてゐたが、
 元年（六八六）六月十日、尾張國の熱田社に
 送り置かれた。
 その遷座を、社中こぞつて喜んだ故事を今
 に伝える。
 〔現在〕五月四日、夕膳を待つて境内の全
 ての火を消し、境内外四ヶ所を歩きめぐり、
 声をあげて笑う。オホホ祭「おかー祭」
 ともよばれ、奇祭として知られる。
 という。（「熱田神社」神社紀行26、学習研
 究社、二〇〇三年五月二二日発行、二二頁）
 他参照

5962P-3/4

5,962P-4/5



146G

写真図版 833

あつた

熱田神宮の

『えようどくんで
酔笑人神事』

(オホホ祭・おか祭ともいう)

136G

あつた

『熱田神宮』神社紀行(26)学習研究社、2003年5月22日発行、22頁

著作権許諾は、
学習研究社だけで結構です。

(25)

136G

『熱田神宮』篠田康雄、学生社、口絵の写真、46~48頁参照、

635P

H29(2017)12.10(回)~12.15(1回)
 H30(2018)12.3(A)~12.3(2回)
 R1(2019)5.2(木)~5.3(3回)

5.962^P-5/5

⑤5962^P-3/4

F5/3
 5/3

た、社中ニぞつて安堵し喜びあひ大いに
 笑つたのではなからうか
 何はともあれ、草薙剣が無事でよかつ
 明徳三年(一三九二)の南北朝合一の後
 元通りに安置された時
 草薙剣を封印する為
 田神宮へ送り置かれた
 と思われるのに、社中ニぞつて喜び笑つた
 というのは訝しい。

たか、天武天皇が、草薙剣を封印する為、熱
 田神宮へ送り置かれた
 と思われるのに、社中ニぞつて喜び笑つた
 というのは訝しい。

神璽の